



古河電気工業株式会社

2026 年 3 月期第 3 四半期決算説明会

2026 年 2 月 9 日

[登壇者]

1 名

代表取締役 兼 執行役員常務 財務本部長 青島 弘治（以下、青島）

古河電工グループ 2025年度第3四半期決算

2026年2月9日

古河電気工業株式会社

代表取締役 兼 執行役員常務 財務本部長 青島 弘治

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

青島：財務本部の青島でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは私より、25 年度第 3 四半期決算および 25 年度通期予想についてご説明いたします。

Agenda

25年度第3四半期実績および25年度通期予想

- 25年度Q3決算のポイント
- 25年度Q3実績
 - 要約P/L
 - 売上高・営業利益の増減要因
- 25年度通期予想
 - 要約P/L
 - セグメント別 営業利益
- セグメント別 売上高・営業利益
- 25年度Q3実績-要約B/S
- 設備投資額・減価償却費・研究開発費
- 26年度に向けて
- 株主還元

補足資料 - Appendix

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

3

3 ページをご覧ください。本日はこちらの Agenda に沿って説明します。

25年度Q3決算のポイント

■ 前年比増収、各段階損益で増益

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)				
	FY24_Q3 累計 a	FY25_Q3 累計 b	前年比 b-a	
売上高	8,820	9,489	+669	● インフラセグメント好調
営業利益	314	351	+37	● 銅価高騰の影響
経常利益	361	408	+46	
親会社株主に帰属する 当期純利益	164	355	+191	● 政策保有株式の売却益
銅建値 平均	1,481	1,559	+78	
為替 平均	153	149	▲4	

5

5 ページをご覧ください。25 年度第 3 四半期決算のポイントです。

前年比増収、各段階損益で増益となりました。インフラセグメントは好調。一部のセグメントで、銅価高騰の影響がありました。

政策保有株式の売却益を計上し、売上高および経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、過去最高値を更新しました。

25年度Q3実績-要約P/L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY24_Q3累計		FY25_Q3累計		前年比		主な増減内訳 (Q3累計前年比)
	10-12		10-12		10-12		
	a'	a	b'	b	b'-a'	b-a	
売上高	3,116	8,820	3,382	9,489	+266	+669	7ページ参照
営業利益	139	314	159	351	+21	+37	8ページ参照
(率)	4.4%	3.6%	4.7%	3.7%	+0.3	+0.1	
受取/支払利息	▲ 19	▲ 59	▲ 22	▲ 61	▲ 3	▲ 2	
持分法投資損益	21	82	43	93	+22	+11	
為替損益	22	▲ 4	12	▲ 8	▲ 10	▲ 4	
経常利益	171	361	204	408	+33	+46	
(率)	5.5%	4.1%	6.0%	4.3%	+0.5	+0.2	
特別損益	▲ 46	▲ 77	102	106	+148	+183	・特別利益：+175 (18→193)
法人税等	▲ 65	▲ 96	▲ 74	▲ 137	▲ 10	▲ 41	・特別損失：+8 (▲ 95→▲ 87)
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 9	▲ 25	▲ 6	▲ 21	+3	+4	
親会社株主に帰属する 当期純利益	52	164	226	355	+174	+191	
(率)	1.7%	1.9%	6.7%	3.7%	+5.0	+1.9	
銅建値 平均	1,449	1,481	1,753	1,559	+304	+78	
為替 平均	152	153	154	149	+2	▲ 4	

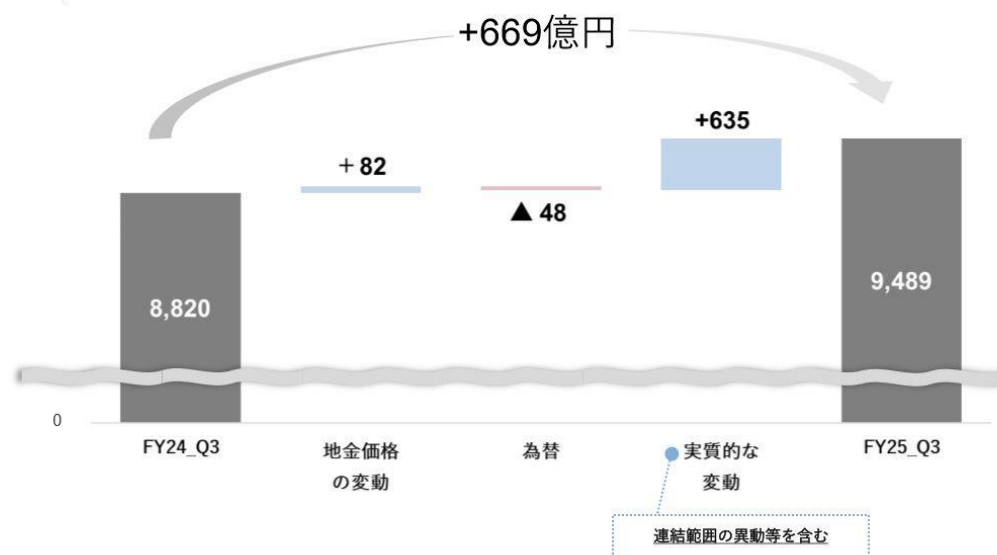
6

6 ページをご覧ください。売上高と営業利益については次ページ以降の増減要因で説明いたしますが、その他の項目について補足します。

持分法投資損益は、前年比でプラス 11 億円です。特別損益は、政策保有株式の売却により、プラス 183 億円改善です。

25年度Q3実績-売上高の増減要因

(単位：億円)



7

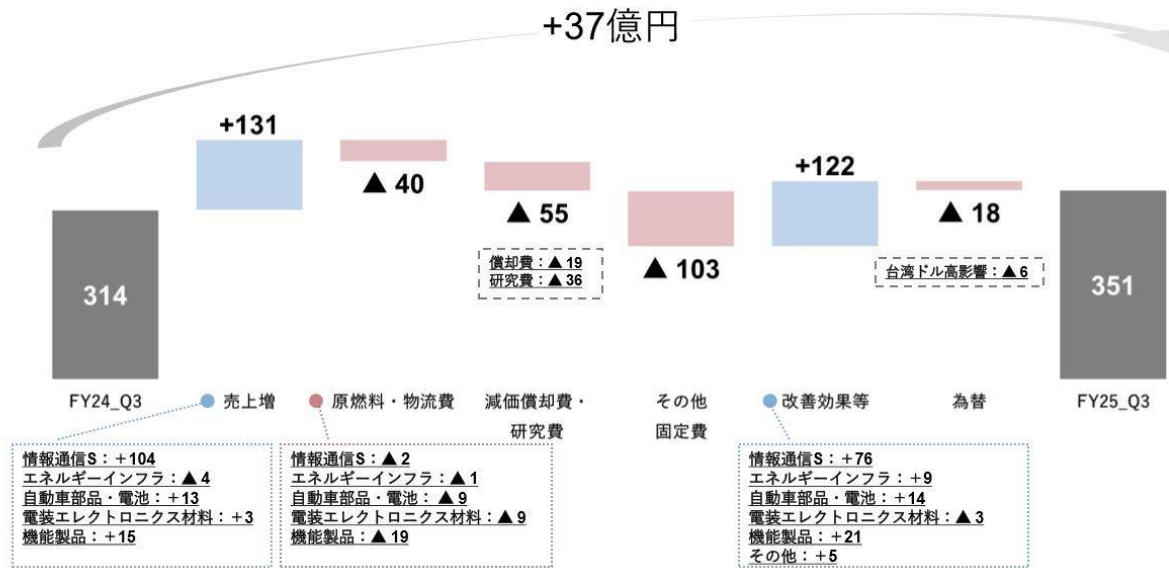
7 ページは、売上高増減要因です。

売上高は、前年同期比プラス 669 億円です。地金価格の変動は、銅価高騰によりプラス 82 億円。円高による為替影響は、マイナス 48 億円。連結範囲の異動等を含めた実質的な変動は、プラス 635 億円となります。

実質的な変動の主な内訳は、情報通信ソリューションで約 420 億円増加。自動車部品・電池で約 70 億円増加。電装エレクトロニクス材料で約 80 億円増加。機能製品で約 70 億円増加となりました。

25年度Q3実績-営業利益の増減要因

(単位：億円)



8

次、8 ページは、営業利益の増減要因です。売上増により、131 億円のプラスです。

主な内訳は、情報通信ソリューションで 104 億円、自動車部品・電池で 13 億円、機能製品で 15 億円のプラスとなりました。原燃料・物流費が、銅価高騰の影響もあり 40 億円の増加。減価償却費・研究費とその他固定費は新規連結の影響もあり増加しましたが、改善効果等で 122 億円カバーしました。為替影響は、US ドルに対し円高、台湾ドル高になったことにより、18 億円のマイナス。

全体の増減要因は、プラス 37 億円となりました。

25年度通期予想-要約P/L

■ 売上高および各段階損益の通期予想を上方修正

(単位: 億円、円/kg、円/米ドル)

	FY24 ^{*1}	FY25 前回予想 ^{*2}	FY25 予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	12,018	12,000	13,000	+982	+1,000
営業利益	470	530	560	+90	+30
(率)	3.9%	4.4%	4.3%	+0.4	▲ 0.1
受取/支払利息	▲ 80	—	—	—	—
持分法投資損益	106	—	—	—	—
為替損益	▲ 22	—	—	—	—
経常利益	485	520	650	+165	+130
(率)	4.0%	4.3%	5.0%	+1.0	+0.7
特別損益	55	60	165	+110	+105
法人税等	▲ 167	—	—	—	—
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 39	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	334	360	540	+206	+180
(率)	2.8%	3.0%	4.2%	+1.4	+1.2
銅建値 平均	1,478	1,398	1,694	+216	+296
為替 平均	153	143	149	▲ 4	+6

- データセンタ関連製品の売上増、自動車部品事業の堅調な推移
- 銅価高騰の影響
(電装エレクトロニクス材料・銅箔)

- 持分法投資利益の増加
- 為替差損益の改善

- 株価上昇による退職給付制度改定益(特別利益)の増加

^{*1} 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定 (FY25_Q3) に伴うリステイト (Appendix 1-1, 参照)

^{*2} 2025/5/13公表

前回予想H2前提
銅建値: 1,335円/kg
為替: 140円/米ドル

Q3実績
銅建値: 1,753円/kg
為替: 154円/米ドル
Q4前提
銅建値: 2,100円/kg
為替: 150円/米ドル

9

次、9 ページは、25 年度通期予想です。売上高および各段階損益の通期予想を上方修正します。

売上高は、主に銅価高騰によりプラス 1,000 億円、営業利益はプラス 30 億円、経常利益はプラス 130 億円、親会社株主に帰属する当期純利益はプラス 180 億円の上方修正です。営業利益は次ページで説明します。

その他の項目を補足すると、持分法投資利益の増加と為替差損益の改善により、営業外収益が増加し、特別利益は、株価上昇による退職給付制度改定益の増加を見込みました。

なお、為替と銅建値の前提を見直しております。

25年度通期予想-セグメント別 営業利益

主なセグメントの営業利益

(単位：億円)

セグメント	サブセグメント	H1 実績	H2 予想	FY25 前回 予想 ^{*1}	H1 実績 ^{*2}	Q3 実績	Q4 予想	H2 予想	FY25 予想	前回 予想比	通期予想 主な修正要因
				a					b	b-a	
インフラ	情報通信 ソリューション	1	74	75	▲ 0	27	73	100	100	+25	データセンタ関連製品の売上増 (増産投資効果の発現)
	エネルギー インフラ	26	39	65	26	30	24	54	80	+15	堅調な需要・価格適正化
電装 エレクトロ ニクス	自動車部品・ 電池	108	112	220	108	81	71	152	260	+40	価格適正化・固定費抑制等
	電装エレクトロニ クス材料	22	28	50	22	3	15	18	40	▲ 10	銅価高騰
機能製品		74	96	170	74	33	43	76	150	▲ 20	銅価高騰 半導体製造用テープの回復遅れ
連結合計 (サービス・開発等、消去等を含む)		194	336	530	192	159	209	368	560	+30	

^{*1} 2025/11/10公表 (2025/8/7公表値を据え置き)

^{*2} 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定 (FY25_Q3) に伴うリステイト (Appendix 1-2. 参照)

10

次、10 ページは、セグメント別営業利益の通期予想です。全社で、前回予想からプラス 30 億円の上方修正です。

情報通信ソリューションは、データセンタ関連製品の売上増に伴い、プラス 25 億円。エネルギーインフラは、堅調な需要・価格適正化に伴い、プラス 15 億円。自動車部品・電池は、価格適正化・固定費抑制等に伴い、プラス 40 億円の上方修正。電装エレクトロニクス材料は、銅価高騰に伴い、マイナス 10 億円。機能製品は、銅価高騰や半導体製造用テープの回復遅れに伴い、マイナス 20 億円の下方修正とします。

セグメント別 売上高・営業利益（Q3累計・通期予想）

（単位：億円）

	売上高			営業利益			売上高					営業利益				
	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比	FY24 ^{*1}	FY25 前回予想 ^{*2}	FY25 予想	前年比	前回 予想比	FY24 ^{*1}	FY25 前回予想 ^{*2}	FY25 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	b-a	c	d	d-c	e	f	g	g-e	g-f	h	i	j	j-h	j-i
インフラ	2,225	2,621	+396	7	82	+75	3,091	3,750	3,750	+659	—	57	140	180	+123	+40
情報通信ソリューション	1,196	1,594	+398	▲ 59	27	+85	1,670	2,350	2,350	+680	—	▲ 41	75	100	+141	+25
エネルギーインフラ	1,029	1,027	▲ 2	66	56	▲ 10	1,421	1,400	1,400	▲ 21	—	98	65	80	▲ 18	+15
電装エレクトロニクス	5,403	5,598	+195	223	214	▲ 9	7,364	6,650	7,700	+336	+1,050	326	270	300	▲ 26	+30
自動車部品・電池	2,984	3,055	+71	186	190	+4	4,095	3,700	3,950	▲ 145	+250	276	220	260	▲ 16	+40
電装エレクトロニクス材料	2,419	2,543	+124	37	25	▲ 12	3,270	2,950	3,750	+480	+800	50	50	40	▲ 10	▲ 10
機能製品	1,121	1,192	+71	122	106	▲ 16	1,470	1,600	1,550	+80	▲ 50	141	170	150	+9	▲ 20
サービス・開発等	262	304	+42	▲ 38	▲ 50	▲ 13	348	400	400	+52	—	▲ 54	▲ 50	▲ 70	▲ 16	▲ 20
連結消去	▲ 191	▲ 226	▲ 35	▲ 1	▲ 1	▲ 0	▲ 256	▲ 400	▲ 400	▲ 144	—	▲ 1	0	0	+1	—
連結合計	8,820	9,489	+669	314	351	+37	12,018	12,000	13,000	+982	+1,000	470	530	560	+90	+30

^{*1} 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定（FY25_Q3）に伴うリステイト（Appendix 1-2、参照）

^{*2} 2025/11/10公表（2025/8/7公表値を据え置き）

11

次、11 ページは説明を割愛します。

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

FY25_Q3累計

(単位: 億円)

	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
	a	b	b-a
売上高	1,196	1,594	+398
営業利益	▲ 59	27	+85

【増減益要因】

- (+) データセンタ向け製品等の売上増
- (±) 新規連結の影響

^{*1} 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定 (FY25_Q3) に伴うリスティ (Appendix 1-2. 参照)

^{*2} 2025/11/10公表 (2025/8/7公表値を据え置き)

^{*3} Distributed Feedback Laser (分布帰還型レーザ)

FY25_通期予想

(単位: 億円)

	FY24 ^{*1}	FY25 前回予想 ^{*2}	FY25 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,670	2,350	2,350	+680	—
営業利益	▲ 41	75	100	+141	+25

事業環境の認識

>> FY25_H1 FY25_H2 >>

データセンタ市場向け需要増
(データセンタ事業者・ダークファイバプロバイダ・通信システムプロバイダ)

注力ポイント

- データセンタ向け製品の開発・増産・拡販

ローラブルリボンケーブル・ソリューション

MTフェルール

DFBレーザチップ^{*3}

12

12 ページです。ここからは、サブセグメントの状況についての説明となります。まずは情報通信ソリューションです。

3Q 実績は、データセンタ向け製品等の売上が増加したことにより、前年同期比で増益。

今後の見通しも、データセンタ関連製品の需要増を見込み、通期の見通しを上方修正します。

1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

FY25_Q3累計

(単位: 億円)

	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
	a	b	b-a
売上高	1,029	1,027	▲ 2
営業利益	66	56	▲ 10

【増減益要因】

- ・ 国内超高圧・再エネ関連・機能線（建設・電販市場向け除く）の需要が引き続き堅調

* 2025/11/10公表（2025/8/7公表値を据え置き）

FY25_通期予想

(単位: 億円)

	FY24	FY25 前回予想*	FY25 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,421	1,400	1,400	▲ 21	—
営業利益	98	65	80	▲ 18	+15

事業環境の認識

>> FY25_H1 FY25_H2 >>

国内超高圧	堅調な国内地中線の更新・再エネ関連需要
海底線	
機能線/部品	堅調な需要
中国事業	Q4から非連結化予定 (瀋陽古河電纜有限公司)

注力ポイント

- ・ ケーブル製造および工事施工能力の増強
 - 国内超高圧・海底線
 - 再エネ関連
- ・ マーケティング活動の推進による拡販
 - らくらくアルミケーブル®
 - 送配電部品

13

13 ページは、エネルギーインフラです。

3Q 実績は、工事案件ごとに採算性等が違うことから、前年同期比で減益となりましたが、国内超高圧、再エネ関連、機能線の需要が堅調なことに加え、価格適正化により、通期の見通しを上方修正します。

2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池)

FY25_Q3累計

(単位: 億円)

	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
	a	b	b-a
売上高	2,984	3,055	+71
営業利益	186	190	+4

【増減益要因】

- (+) 自動車部品事業は堅調
- (-) 自動車向け電池の売上減少

*1 2025/11/10公表 (2025/8/7公表値を据え置き)

*2 電池事業非連結化の影響
 売上高 : ▲ 約210億円
 営業利益 : ▲ 約20億円

FY25_通期予想

(単位: 億円)

	FY24	FY25 前回予想 *1	FY25 予想	前年比 *2	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	4,095	3,700	3,950	▲ 145	+250
営業利益	276	220	260	▲ 16	+40

事業環境の認識

	>> FY25_H1	FY25_H2	>>
自動車部品	自動車生産台数は前年並み		
電池	中国・東南アジア市場での売上減		
		Q4から非連結化	

注力ポイント

- ・ 米国関税措置への対応
- ・ 組立の自動化
- ・ 電動車市場に向けた製品開発

アルミワイヤハーネス・高電圧対応品

14

14 ページは、自動車部品・電池です。

3Q 実績は、自動車部品事業の売上が堅調に推移し、前年同期比で増益です。

通期の見通しは、円安や労務費高騰に関し、お客様との交渉状況を織り込んだことや、固定費抑制などにより、上方修正します。

2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)

FY25_Q3累計

(単位: 億円)

	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
	a	b	b-a
売上高	2,419	2,543	+124
営業利益	37	25	▲ 12

【増減益要因】

(一) 為替・銅価による影響

*1 2025/11/10公表 (2025/8/7公表値を据え置き)

*2 銅価・為替変動の影響を含む

FY25_通期予想

(単位: 億円)

	FY24	FY25 前回予想 *1	FY25 予想	前年比	前回 予想比 *2
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	3,270	2,950	3,750	+480	+800
営業利益	50	50	40	▲ 10	▲ 10

事業環境の認識

>> FY25_H1 FY25_H2 >>

エレクトロニクス関連製品需要は回復傾向

銅価高騰

注力ポイント

- 高付加価値製品の拡販による製品ミックス改善

無酸素銅製品群
(パワー半導体・放熱部品用)リボン線・角線
(高性能インダクタ・メモリ用)高機能抵抗材
(スマートフォン・xEV用)

- 販売価格の適正化と低採算品種の撤退

15

15 ページは、電装エレクトロニクス材料です。

3Q 実績は、急激な銅価高騰により、前年同期比で減益となりました。通期の見通しは、足元の銅価格を考慮し、本年度中での銅価高騰の影響の取り戻しは厳しいと見立て、下方修正します。

3 機能製品

FY25_Q3累計

(単位：億円)

	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
	a	b	b-a
売上高	1,121	1,192	+71
営業利益	122	106	▲ 16

【増減益要因】

- (+) データセンタ関連製品の売上増
- (-) 台湾ドル高・銅価高騰の影響
(銅箔)
- (-) 主要顧客の需要変化
(半導体製造用テープ)

* 2025/11/10公表 (2025/8/7公表値を据え置き)

FY25_通期予想

(単位：億円)

	FY24	FY25 前回予想*	FY25 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,470	1,600	1,550	+80	▲ 50
営業利益	141	170	150	+9	▲ 20

事業環境の認識

>> FY25_H1 FY25_H2 >>

データセンタ関連投資の活況継続

為替(台湾ドル高)・銅価高騰

中国の半導体内製化進行

注力ポイント

- ・ データセンタや再エネ関連市場向け高付加価値製品の増産・拡販

半導体
製造用テープ高機能
フォーム製品高機能放熱・
冷却製品HDD用薄型
アルミブランク材高周波基板用
銅箔

16

次 16 ページは、機能製品です。

3Q 実績は、データセンタ関連製品の売上増や銅価高騰により、前年同期比で増収でしたが、半導体製造用テープにおいて主要顧客の需要変化があったことや、銅箔において台湾ドル高・米ドル安の影響に加え、急激な銅価高騰によりヘッジ評価損が発生し、減益となりました。

通期見通しも、半導体製造用テープにおいて主要顧客の需要変化が継続することなどにより、下方修正します。

25年度Q3実績-要約B/S

(単位: 億円)	FY24末 [*]	FY25_Q3末	増減
	a	b	b-a
流動資産	5,564	5,931	+367
現金及び預金	600	720	+121
受取手形、売掛金及び契約資産	2,606	2,649	+43
棚卸資産計	1,950	2,088	+138
固定資産	4,316	4,349	+33
有形固定資産	2,770	2,619	▲ 151
無形固定資産	240	239	▲ 1
投資その他の資産	1,306	1,490	+184
資産合計	9,881	10,280	+399
流動負債	3,945	4,326	+381
固定負債	2,198	2,013	▲ 185
負債合計	6,143	6,338	+196
株主資本	2,915	3,194	+279
その他の包括利益累計額	499	583	+83
非支配株主持分	323	164	▲ 159
純資産合計	3,738	3,941	+204
負債・純資産合計	9,881	10,280	+399
自己資本比率	34.6%	36.7%	+2.1
NET有利子負債	2,462	2,454	▲ 8
NET D/Eレシオ	0.72	0.65	▲ 0.07

資産合計 399億円 増加

古河電池グループ再編	▲ 520億円	}	運転資本等 560億円
現金及び預金	+ 160億円		
受取手形、売掛金及び契約資産	+ 200億円		
たな卸資産	+ 200億円		
投資有価証券	+ 100億円		
為替影響	+ 50億円		
連結範囲の異動	+ 100億円		

* 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定 (FY25_Q3) に伴うリスティ (Appendix 1-3. 参照)

17

17 ページは、バランスシートです。

総資産は 1 兆 280 億円で、前年度末より 399 億円増加です。主に古河電池グループ再編に伴い、約 520 億円の減少。売上増加に伴い、運転資本等が約 560 億円増加。株価高騰により、投資有価証券が約 100 億円増加。為替変動の影響により、約 50 億円増加。連結範囲の異動に伴い、約 100 億円増加したことが要因となります。

各経営指標は、いずれも改善しております。

設備投資額・減価償却費・研究開発費

■ 通期予想は据え置き

(単位: 億円)	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比	FY24 ^{*1}	FY25 前回予想 ^{*2}	FY25 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	b-a	c	d	e	e-c	e-d
設備投資額	238	358	+120	386	600	600	+214	—
減価償却費	304	324	+19	414	420	420	+7	—
研究開発費	191	226	+36	254	290	290	+36	—



^{*1} 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定 (FY25_Q3) に伴うリステイト

^{*2} 2025/11/10公表

18

次、18 ページは、設備投資額・減価償却費・研究開発費です。

データセンタ関連製品の需要増に伴い、増産投資を実施していることから、前年比で増加しています。設備投資額・減価償却費・研究開発費の見通しは、11 月公表時から変更はございません。

26年度に向けて

- データセンタ関連製品の需要は引き続き旺盛
- 需要捕捉のための積極的な増産投資を実施

26年度 主なセグメントの営業利益イメージ

(単位：億円)		FY24 実績*	FY25予想		FY26 予想	前 提
セグメント	サブセグメント		H1 実績*	H2 予想		
インフラ	情報通信 ソリューション	▲ 41	▲ 0	100	100	データセンタ関連製品等の売上増 (ローラブルリボンケーブル、MTフェルール、DFBレーザチップ等)
	エネルギー インフラ	98	26	54	80	超高圧地中線・再エネ関連・機能線・送配電部品の需要は 堅調
電装 エレクトロ ニクス	自動車部品・ 電池	276	108	152	260	電池事業の非連結化(25Q4～)の影響 顧客の自動車生産台数はFY25並み
	電装エレクトロ ニクス材料	50	22	18	40	大きな需要環境の変化はない ※銅価変動影響を注視
機能製品		141	74	76	150	データセンタ関連製品等の売上増 (放熱・冷却製品、高周波基板用銅箔、半導体製造用テープ等)

* 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定 (FY25_Q3) に伴うリステイト (Appendix 1-2. 参照)

19

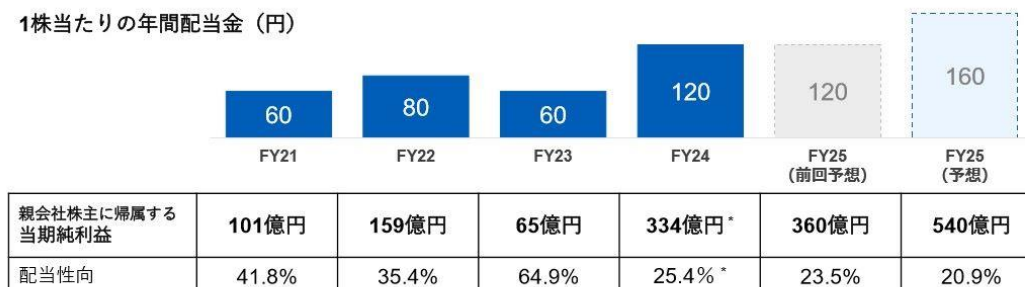
19 ページは、26 年度に向けて、現時点におけるサブセグメントごとの営業利益イメージを矢印で表しております。

データセンタ関連製品の需要は引き続き旺盛で、需要捕捉のための積極的な増産投資を実施してまいります。

株主還元

- 期末配当は、1株当たり160円を予想しております
(2025年5月13日公表の120円から40円増加)

1株当たりの年間配当金 (円)



株主還元の方針

安定的かつ継続的に株主還元していくことを基本方針とし、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目途として業績に連動した配当を実施

* 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定 (FY25_Q3) に伴うリステイト (Appendix 1-1. 参照)

20

20 ページは、株主還元です。期末配当について、通期予想の見直しに鑑み、本年度の期末配当予想を、前回公表の1株当たり120円から160円に変更します。

説明は以上となります。